

第5回 幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発委員会 会議要旨

- 1 日時 平成31年1月29日（火）14:00～16:00
- 2 会場 東京都庁第一本庁舎25階一般会議室116
- 3 出席者 無藤委員（委員長）、坂野委員、山森委員、瀬下委員、小堀委員、
宇田委員（副委員長）、栗原委員、児玉委員、
教育課程の研究・開発モデル地区委員会委員

4 議事概要

(1) 報告

- ・ 第4回 幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発委員会における確認事項について
- ・ 第5回及び第6回 教育課程の研究・開発モデル地区委員会における協議内容について

(2) 議事

▽ 実態調査について

- 各選択肢をポイント化する場合、選択肢が四つのため、「1、2、3、4」にするとよい。
- 幼児・児童の資質・能力について、既に身に付けているものとまだ身に付けていないものの傾向が明らかになった。また、月齢による個人差があることも判明した。

幼児・児童が既に身に付けている資質・能力や月齢による個人差など、実態調査の結果を、研究・開発する教育課程に反映させていく必要がある。

▽ 教育課程の具体例（案）について

- 「知識及び技能」だけではなく、スパイラルに育む「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」についても記載するとよい。
- 就学前施設では遊びや生活などの経験を通して学び、小学校では教科で学んだことを生かして学ぶ、ということを分かりやすく記載するとよい。
- 5歳児の教育課程は、「このとおりにやればよい」、「やらなくてはいけない」と捉えられないよう、示し方に工夫をするとよい。また、小学校の教育課程は、活動や単元名を具体的に明記し、就学前教育とのつながりを分かりやすくするとよい。
- 実態調査の結果を踏まえ、繰り返し指導を行うものと、指導の時期を変えるものを明示するとよい。

教育課程の大まかな考え方はこれでよいが、スパイラルに育むものについても記載し、教育課程の中に位置付ける必要がある。また、繰り返し指導を行うものと、指導の時期を変えるものが分かるようにする。

▽ 最終報告の骨子（案）について

- 「教育課程の概要」に、教育課程の基本的な考え方や特徴などを記載するとよい。
- 実態調査でポイントが高い項目は、就学前教育において既に培われているものであることが多い。研究・開発する教育課程はこうした実態を踏まえて作成していることを、丁寧に説明する必要がある。

最終報告には、研究・開発する教育課程の考え方や特徴、実態調査との関連性等を記載し、幼児・児童の実態に即した教育課程であることを示す。